

公立大学法人金沢美術工芸大学
令和5年度 業務実績評価書(案)

令和6年 月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価方法.....	1
1	評価の構成.....	1
2	項目別評価.....	1
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4～8
①	大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
②	大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
③	大学の教育研究等の質の向上に関する目標（社会との連携に関する目標）	
④	大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
⑤	業務運営の改善及び効率化に関する目標	
⑥	財務内容の改善に関する目標	
⑦	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
⑧	その他業務運営に関する重要目標	

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、その進捗状況を次の4段階の評価区分により、判断理由を付して評価する。

※ 年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない
Ⅰ	年度計画を実施していない

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(イ) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、その進捗状況を次の5段階の評価区分により評価するとともに、特筆すべき事項や改善が望まれる事項についてコメントを付す。

年度計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （社会との連携に関する目標）
	④ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	⑤ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑥ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑦ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑧ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
	※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
	※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある
	※ 評価委員会が特に認める場合

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

Ⅱ 評価結果

1 全体評価

第3期中期目標期間の2年目となった令和5年度も、年度計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価において全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）となっており、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

また、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢も随所に見受けられた。

特筆すべきは、新キャンパスで新設された「共通工房」について、前例のない全く新しい施設・組織として独自に管理・運営体制を構築し、学生の利用環境の整備に取り組むとともに、同じく新設した展示スペース（アートコモンズ）について、様々な広さや形態を備えると同時に、キャンパス内のメイン通路に面することで学内外の人々に展示が公開されるという特性を生かした教育を行い、学生が展示方法を効果的に学習し、また、外部の研究発表にも当該スペースを活用することで、学生の学ぶ機会を拡大させるなど、新キャンパス施設を活用した特色ある教育を推進し、学習環境の更なる向上につなげたことである。

このほか、以下に大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 令和5年10月の新キャンパス移転記念として、アートギャラリーを会場とした企画展を前期・後期の2度開催し、所蔵品の活用と市民への公開に努めるとともに、「平成の百工比照」コレクションを展示・閲覧する常設コーナーを新設し、研究活動の成果の発信にも積極的に取り組むなど、新キャンパスにおける市民に開かれた施設として美術館・図書館を活用したこと。
- ・ 新キャンパスにおける学生の憩いの場として共用スペースの活用方法を検討し、コロナ禍で撤退していた食堂事業者の誘致に加え、弁当販売業者の拡充、キッチンカーの誘致及びアートプロムナード内の環境整備による賑わいの創出、健康に配慮した冷凍食品自動販売機設置による時間外・休日の食事提供など、多数の取組を実施し、学生間の交流を促進するだけでなく、市民が気軽に利用できる空間を創出したこと。
- ・ 令和6年能登半島地震で被災した石川県立輪島漆芸技術研修所の卒業作品制作を支援するため、大学の漆制作室及び宿舎を提供し、連携を強化するとともに、地域文化と産業の発展に貢献したこと。

2 項目別評価

① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の48の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が9項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が39項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ これまでも継続して学位審査会へ外部審査委員を招聘し、学位授与の客観性・信頼性の向上に向けた取組を着実に進めてきており、その上でさらに外部審査委員を必須条件とする規定改正を行い、将来的な実効性を担保したこと。
- ・ キャンパス・ハラスメントに関する集合研修に加え、関連図書を全教員に配布することで理解の深化を促すとともに、大学法人として新たに弁護士と顧問契約を結び、複雑化するハラスメントをはじめとした相談等に常時法律的な助言を受けることができる体制を整備したこと。
- ・ 新キャンパス移転に向けて作成した新たなビジュアル・アイデンティティを踏まえ、入試広報の実施体制を整備し、その上でホームページと大学案内の刷新及びデザインの統一を行うことで、大学のブランド力の向上を図り、さらにホームページの内容についても、入試志願者にとって必要な情報へアクセスがしやすいよう改善に取り組んだこと。
- ・ 新キャンパス移転にあわせて共通工房の整備に取り組むとともに、新設した展示スペース（アートコモンズ）を学内外問わず活用することで、学生が展示方法について学ぶ機会のみならず、外部の研究発表を身近に学ぶ機会も充実させたこと。

② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の15の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が13項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 国立民族学博物館との連携協定に基づき、「平成の百工比照」の高等教育教材における活用について研究を進め、全国の博物館学芸員課程で活用できる質の高い貴重な映像教材を作成し、特色ある調査研究を推進したこと。
- ・ 新キャンパスの美術館・図書館内に新設した「平成の百工比照」コレクションを自由に閲覧できる常設コーナーに、高精細の4K画質で撮影した工芸技術記録映像を視聴できるスペースを併設することで、閲覧者の理解を一層深める充実した環境を整備するとともに、企画展を開催することによる相乗効果により集客力を高めたこと。

③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（社会との連携に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の12の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が10項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 「金沢マラソン完走メダル」や「株式会社湖池屋『プライドポテトJAPAN』」のデザイン制作等の継続事業に加え、G7富山・金沢教育大臣会合のPRツール制作や、国民文化祭（いしかわ百万石文化祭2023）での障害者作品展のブースコーディネートといった催しでも大学の多様な特性を生かした事業連携に取り組み、専攻等の特性に応じた実践的な能力を身につける機会を充実させ、特色ある教育を推進したこと。

④ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の11の小項目のうち、Ⅳ評価が3項目、Ⅲ評価が8項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新たにデンマーク王立美術院へ学生を派遣したことに加え、サバティカル制度を利用して同校へ教員の派遣も行い、また、エディンバラ大学から初となる留学生を受け入れるなど、両校との交流関係をより一層充実させたこと。
- ・ 従来から運用していた学習管理システムの有用な機能を残しつつ、新たな教務システムを導入し、効率的に教育・学習環境の改善を実施したこと。

⑤ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の9の小項目のうち、Ⅳ評価が4項目、Ⅲ評価が5項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 令和6年度に向けて社会連携センターを社会共創センターに改めるとともに、教育研究センターを美術工芸研究所の下部組織から独立した組織とする学内組織の改編を行い、関係規定の改正等にも着手するなど、社会の変化に対応した柔軟な組織運営を行ったこと。

⑥ 財務内容の改善に関する目標

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の12の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が10項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 外部資金、寄附金等の積極的な獲得に努めた結果、産学連携事業を9件、地域連携事業を20件受託し、当初見込みを大きく上回る26,713千円の受託研究収入を計上するとともに、教育研究基金については、2,085千円の寄附を受け入れたこと。

⑦ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の5の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が4項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 令和6年10月1日の移転開学にあわせた広報媒体の刷新に向け、ワーキンググループを設置して協議を重ねるとともに、アートディレクターによる監修を加えるなど、広報の実施体制の充実を図ったこと。

⑧ その他業務運営に関する重要目標

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の22の小項目のうち、Ⅳ評価が9項目、Ⅲ評価が13項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新キャンパス移転プロモーションとして、学内外問わず聴講可能な特別講演や移転開学記念講演会を開催したほか、地元小学校と連携した作品展を行い、地域住民が新キャンパスを訪れる機会を創出するなど、移転開学の機を捉え、地元地域をはじめとした幅広い層に対して積極的にプロモーションを展開したこと。